

奥野小:鈴木校長、この2年の足跡

奥野小学校評議員S.Hの記録

この資料は、教育委員会学校サポーターや学校評議員として、2002年から市内各校を比較的多く訪問し見てきた個人の奥野小ここ2年の観察記である

鈴木校長の取り組み	26年度	27年度	
地域との交流・連携 地域が企画・運営する体験型塾誕生	5月:懇話会定期開催:地域の力を子どもたちにと働きかけ	日曜奥野カップ塾(文化・生活・スポーツ)開催 折り紙教室、料理教室、茶道教室、音楽コンサート スポーツ教室、ドッジボール教室、そば収穫祭	
	8月:サマーナイトフェスティバル実施(50周年記念)	8月 第二回サマーナイトフェスティバル開催	
	地域バンドWindBells誕生(二中吹奏楽部経験者を中心に結成)		
	奥野さくらふれあい保育園・奥野小学校・地区も一緒に屋台も花火もある夏の夕べ		
児童クラブ課の運営 土曜カップ塾 放課後カップ塾	率先参加:目標を英語と国語の学力向上におく	引き続き開催 英検・漢検受験者増へ 毎週2日:学力保障、学習の習慣化を目指す指導	
牛久二中との連携	小中合同職員研修(子どもと教師相互の顔の見える)密な実施:小中学校9年間の教育へ		
	6年生の中学校体験:二中に6年生の教室を常設		
	中学生による読み聞かせ	奥野地区体育祭に児童生徒全員参加(委員会支援)	
奥野小(・二中)の特色づくり 国際理解教育 ESD教育 (奥野の自然と共生する学習)	奥野の学びは、グローバル時代にアドバンテージを得る	地域ボランティア(実践語学力)を拡充:二人 毎週3回15分間の英会話:全学年 イングリッシュルーム(英語だけ)の教室常設 2月:全校イングリッシュタイム(ALT二人の指導)実現 オレンジ市OAGS(私立校)とスカイプによる交流:3回 ネイティブ二人による英語学習の充実 二中の英語学習は少人数グループにて行き届いた指導	
	この特色づくりは、二中櫻井校長との密接な連携から生まれている。櫻井校長は奥野小時代教務主任であり、後任が鈴木校長。2年間ともに在職。この地区に再任し、その変化を認識。共通する問題と課題解決に乗り出した。		
	NPOアサザ基金および大学の協力による授業:二中では奥野地区を探訪し郷土を識る歩く会を各年毎に実施		
	奥野っ子ステージ:学習成果の発表 日常の成果を地域の方々へ披露	4年・5年は奥野の宝(自然)を 2年・1年・6年・3年は英語学習の成果を堂々発表	
	理念:日々の学級経営を重視する	「分かった」「できた」と自信を持って言える子の育成(一人の子を地域で見守り、一人一人の学びを保障する)	
	市陸上競技会	流通経済大学陸上コーチを招き指導	6年生の学び合い:市内ナンバーワンの学力へ 流通経済大学陸上コーチを招き指導
教育委員会の取り組み	奥野学園(仮称)構想の検討	隣接型小中一貫教育体制への動き	
文科省事業に応募	「小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化」事業	応募し認定を受け、同予算を利用しALT2人体制実現 (奥野小と二中に各一人常駐、活用法は両校で決める)	
	「コミュニティ・スクール導入促進」事業	応募し認定を受け27年度~29年度で事業計画を作成	
特認校制度	奥野小・二中に制度を適用:校区を市内全般へ拡大(28年度試行、29年度導入へ)		
情報教育サポーター兼学校評議員の 関わり	教育委員会情報教育サポーター兼奥野小情報教育協力員	学校評議員5年ぶり復帰(過去歴2003~2010年)	
	第一回懇談会から参加	7月:HPリニューアル開設「奥野の郷」	
		10月:ブログ開設:学校の取り組み等を非公認広報	